

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba

第11号 2019年2月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへとお届けする」という意味が込められています。



写真左上から：ミニバレーを楽しむ参加者／駅伝のスタート
大人気のアダプテッドスポーツ「車いすポートボール」／閉会式後の集合写真

第42回秋季スポーツ・デーを終えて

11月17日と18日に第42回秋季スポーツ・デーが開催されました。2日間ともに晴天となり、たくさんの方々に参加していただくことができました。スポーツ・デーが始まった時からの重要な柱である正式種目や陸上競技場で楽しめる学生委員会企画、秋季のみの開催である駅伝、今年で3年目になりましたアダプテッドスポーツ[※]など様々なスポーツを参加者の皆様に体験していただける機会をつくること出来たのではないかと考えております。

42年続くスポーツ・デーの伝統を守りつつ、新しい取り組みにもどんどんチャレンジしていきたいと考えています。今年のスポーツ・デーにもぜひご期待頂ければと思います。皆様のご参加お待ちしております。

ちしております。
(寄稿/第42代スポーツ・デー学生委員会委員長
大山隆廣・数学3年)
※アダプテッドスポーツとは、障がいの有無や年齢、性別に関係なく、誰もが参加できるように修正された、あるいは新しく作られたスポーツのことです。

今後の主な予定(変更になる場合があります)

春季休業	2月16日～4月7日
同(東京キャンパス・夜間)	2月17日～4月8日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月30日
入学式	4月8日
同(東京キャンパス・夜間)	4月6日
新入生歓迎祭本祭	4月8日
新入生オリエンテーション(学群)	4月8日～10日
新入生オリエンテーション(大学院)	4月8、9日
同(東京キャンパス・夜間)	4月6日
授業開始(大学院)	4月10日
授業開始(学群)	4月11日
同(東京キャンパス・夜間)	4月9日
春季スポーツ・デー	5月11、12日

—内容—

キャンパスニュース、課外活動団体構成員数一覧 学生相談室から、桐の葉日記、筑波大学の風景	1頁
留学情報、学生の一週間、大学院進学報告	2頁
卒業式・入学式のご案内	
特集：紫峰の風が届くまで	3頁
芸サ連、文サ連、全代会、体育会活動紹介	3、4頁

キャンパスニュース



写真左上から：体育会系別会「体育会のキャラクターを考えよう」/芸サ連系別会団体紹介
三系合同ビンゴ大会/全体集合写真

リーダー研修会

リーダー研修会は、文化系サークル連合会・芸術系サークル連合会・体育会(三系)に所属するサークルや部活動の新責任者や役員が泊りがけで団体運営の意義・あり方を学び、普段は関わらないような団体と交流をすることで、リーダーとしてのモチベーション向上の機会とする場を設けようと毎年開催されています。今年度は12月1日から2日にかけて群馬県の研修施設で行い、217名の学生・教職員が参加しました。内容としては、効果的な組織運営について学ぶ講演会、所属する系ごとに模擬会議や交流を行う系別会、系を超えての交流を図る三系レクや懇親会を行いました。

施設や運営に対する不満の声はあったものの、リーダー研修会の内容を活かそうと真剣に取り組んでくださった方も多く見受けられました。1年前から内容を練ってきましたが、運営に携われたことを光栄に思います。

今年も、筑波大学紫峰会基金より援助金40万円をご支援いただきました。研修経費のうち宿泊費等の学生の負担軽減を図ることができました。ご支援ありがとうございました。

(寄稿/平成30年度課外活動団体リーダー研修会実行委員会
実行委員長 武田あすか・資源2年)

サザコーヒー・カスミ

昨年10月、筑波大学のキャンパス内にコーヒーショップのサザコーヒーとスーパーマーケットのカスミがオープンしました。2つの店舗は平砂学生宿舎の北に位置し、筑波大学の学生や教職員だけでなく地域住民の方で日々賑わっています。サザコーヒー筑波大学店ではカフェとしての利用だけではなくコーヒー豆の販売なども行っています。店内には大きな焙煎機が置かれ利用客の目を楽しませてくれます。新たにオープンしたカスミは安価な商品が多く並んでいるため、特に学生にはありがたいです。カスミ筑波大学店の大きな特徴は現金を使わずクレジットカードや電子マネーで支払いを行うキャッシュレスの方式を採用していることです。これにより現金管理のコスト削減が可能となっています。キャッシュレスという言葉は消費税の増税と合わせて最近よく耳にする単語でもあります。今後こういった形態をとる店舗が増えていくのかも知れません。

(取材/芸サ連広報局長 川村風太・生物3年)



ペDESTリアンデッキから見えるカスミとサザコーヒー

2018年体育会納会を終えて

12月12日我々は納会を行い、無事に体育会も1年の活動を締めくくることができました。このような式典を成功させられたのもひとえに、体育会の活動に賛同していただいている先生方や団体構成員の皆様のおかげだと思っております。今年につくば国際会議場に場を借り、異例の学外開催だったにも関わらずたくさんの方にお越しいただき、執行委員一同嬉しく思っております。

体育会納会は二部構成で行い、一部は体育会賞の表彰や新執行委員の紹介など、厳かな式典を執り行いました。また二部では立食パーティを行い、参加者一同和やかな雰囲気でお話の様子が見られました。今後も良い会を作っていこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(寄稿/体育会執行委員会第43代委員長 長谷勇希・体専3年)



第二部懇親会での参加者の様子

課外活動団体構成員数一覧

2019年1月現在

文化系サークル連合会		TOJO K-ON		人形劇団NEU		少林寺拳法部		サッカー同好会	
団体名	構成員数(人)								
アマチュア無線クラブ <small>※4月以降、電気通信研究会に改称</small>	8	ねっしー・自然教育研究会	66	Neoplis BIGBAND	47	水泳部	47	トランポリン同好会	47
Amusement Creators	28	文芸部	35	ピアノ愛好会	85	スキー部	14	バスケットボール同好会	32
E.S.S.(English Speaking Society)	13	マジシャンズクラブ	16	ViCC-映画をつくる会-	13	漕艇部	12	バドミントン同好会	132
池坊華道部	13	漫画研究会	21	フォルクローレ愛好会	12	男子ソフトボール部	30	バレーボール同好会	16
囲碁部	10	野外活動クラブ	29	舞踏研究会	20	女子ソフトボール部	17	フェアリースキークラブ	23
宇宙工学研究会	10	野生動物研究会	50	ブロックフレイテ同好会	17	体操部	19	ワンダーフォーゲルクラブ	50
映画研究部	18	歴史探訪会	13	邦楽部	29	体操競技部	28	医学	
SF研究会アルピレオ	10	芸術系サークル連合会		ミュージカル集団ESSASSA	72	卓球部	34	アイスホッケー部	39
園芸クラブ	18	団体名	構成員数(人)	落語研究会	15	ダンス部	25	弓道部	69
海洋研究会	33	アカペラサークルDoo-Wop	134	体育会		トライアスロン部	39	剣道部	22
CLOVER～難民と共に歩むユース団体～	27	E.L.L.(筑波軽音楽協会)	122	部会		軟式庭球部	19	硬式庭球部	63
写真部さくら組	20	応援部WINS	78	アーチェリー部	23	馬術部	17	ゴルフ部	79
歌留多部	54	合唱団むくどり	10	合気道部	7	男子バスケットボール部	43	サッカー部	57
斬桐舞	49	管弦楽団	107	男子アイスホッケー部	31	女子バスケットボール部	22	準硬式野球部	50
現代視覚文化研究会	100	ギター・マンドリン部	29	女子アイスホッケー部	20	バドミントン部	36	水泳部	107
茶道同好会	25	劇団筑波小劇場	16	女子アイスホッケー部	20	男子バレーボール部	14	スキー部	31
茶道部和敬清寂社	24	混声合唱団	46	アメリカン・フットボール部	46	女子バレーボール部	15	卓球部	43
山岳旅の会	-	ジャグリングサークルSheep	16	オリエンテーリング部	52	男子ハンドボール部	26	バスケットボール部	29
社会福祉研究会	194	写真部	34	鹿島神流武道部	28	女子ハンドボール部	19	バドミントン部	106
手話サークル	23	JAZZ愛好会	38	空手道部	12	フィールドホッケー部	11	バレーボール部	38
将棋部	34	書道部	36	弓道部	26	ヨット部	4	ハンドボール部	64
図画団	28	吹奏楽団	55	剣道部	84	ライフセービング部	6	ソフトテニス部	46
ストーリーテリング研究会	14	男声合唱団メンネルコール	10	硬式野球部	113	ラグビー部	98	ヨット部	17
T.A.S.C.	24	筑波音楽協会	62	硬式庭球部	36	男子ラクロス部	48	ラグビー部	49
筑波大鉄研「旅と鉄道の会」	26	筑波能・狂言研究会	10	サイクリング部	54	女子ラクロス部	28	陸上競技部	91
つくば鳥人間の会	39	津軽三味線倶楽部無絃塾	39	蹴球部	122	陸上競技部	234	同好会	
筑波文学の会	15	つくばフォーク村	54	女子サッカー部	19	INVER HOUSE	59		
天文研究会	68	THK筑波放送協会	25	柔道部	45	剣道同好会	24		
		ときめき太鼓塾	12	準硬式野球部	25				

学生相談室から

受付窓口 029-853-2415
電話相談 029-853-2406

「家族も成長する」 保健管理センター学生相談室 田附あえか

人間は生まれてから死ぬまでの間、刻々と成長し変化していきます。心理学者のエリクソンは人の一生を「乳児期」「青年期」「成人期」から「老年期」など8つの発達段階にわけて考えました。それぞれの段階には達成すべき心理社会的課題があるとされました。たとえば一番初めの乳児期は養育者の適切なお世話をえて「基本的信頼」を得る時期、青年期には「自我同一性(アイデンティティ)」を培う時期であるとされています。

さらに、個人のみならず家族も生まれてから死ぬまでの間、成長発達するという「家族ライフサイクル」という考え方があります。現代は様々な家族のあり方があり、それらに応じたライフサイクルが提唱されています。両親と子どもがいる家族の発達としては、1. 家からの巣立ち(独身の若い成人期)、2. 結婚による両家族の結合(新婚期・家族の成立期)、3. 子どもの出生から末子の小学校入学ま

での時期、4. 子どもが小学校に通う時期、5. 思春期・青年期の子どもがいる時期、6. 子どもの巣立ちとそれに続く時期: 家族の回帰期、7. 老年期の家族の時期: 家族の交替期という7つの過程を経ながら成長していきます。この考え方の特徴の一つは、家族を作るには結婚の前に準備段階があるという点です。

大学生のお子様は多くの場合、この段階にあります。他者とのつながりを保ちつつ、自分らしく自立して生きるという一見矛盾したあり方を模索する段階であるとされます。ご家族の方は「思春期・青年期の子どもがいる時期」や「子どもの巣立ちとそれに続く時期: 家族の回帰期」でしょうか。たとえば、家族はできるだけみんな一緒に行動する、というルールがあったとしましょう。これは子どもが小さい時期には大事なルールとなります。しかし子どもが思春期に入る頃にはそうではないこともあります。個人の成長と同様、家族のあり方は成長と共に変わっていく必要があるのです。しかし家族というのはなかなかかわりにくいものです。子どもが大学生になって自立していく時期は家族にとっても大きな変化の時期です。一度家族のあり方を見直してみる好機なのかもしれません。

桐の葉日記

毎朝毎晩、寒さの厳しい日々が続いています。雨雲は鳴りを潜めており乾燥のせいかインフルエンザが流行っているようです。この紫峰の風第11号が皆様の元へ届く頃には、凍てつく風も幾分和らいで、筑波山の梅が見頃を迎える季節でしょうか。

私はこの一月に成人式を迎えました。先日行われた同窓会で数年ぶりに会った友人それぞれがまったく違う生活をしていて、懐かしく思う気持ちとともに寂しくもあり、現在の自分を見つめ直すきっかけにもなりました。次に会うことのできる機会はいつかわかりません。しかし、それは今過ごしている大学生活でも同じことで、普段一緒に過ごしている友達やこうして共に紫峰の風を作っているメンバーを大切にしなければと、高校時代の友人との写真を見ながら改めて思います。紫峰の風の制作過程でも写真を撮ることが多々ありますが、その影響が最近生活のなかでもちょっとしたものを写真に収めるようになりました。買ったお気に入りのものであったり、ちょっとした夕陽であったり、あとで見返すとその時の心情が甦り、わくわくします。私は、来年度も広報部会として紫峰の風の制作に携わ

っていく予定ですが、より生き生きとした写真とともに私たちの大学生活をお届けしたいと思います。今年も紫峰の風をよろしく願います。

(文責/山岸素子・知識2年)

大学の風景



早朝の筑波大学

留学情報

グローバル・commons機構
学生部 学生交流課

～ Go Abroad ! ～

本学は、開学以来、「開かれた大学」という理念のもとに、国際交流を積極的に促進してきました。また、本学のミッションとして、「地球規模課題の解決に向けた知の創造とそれを牽引するグローバル人材の育成」を掲げています。その結果、現在では多くの大学や教育研究機関と学生交流協定を結んでおり、例年4,000人以上の留学生を受け入れ、2,000人以上の学生を海外へ派遣しています。

しかし、グローバル社会が大学に求めている国際化は日々複雑化し、あらゆる分野で世界に貢献できるグローバル人材が必要とされています。このニーズの変化に対応するため、本学は多様な教育・研究の国際交流プログラム等を準備してきました。教育面では、従来の大学の国際化の主流となっていた交流協定に基づいた学生の交流に加え、ダブル・ディグリーやジョイント・ディグリー、サーティフィケート授与等を組み込んだ共同教育プログラム、インターシップやフィールドワークを含めた国際交流プログラム等を積極的に推進しています。

以下に、本学の留学制度について、簡単にご紹介します。

◆交換留学

本学と学生交流協定を結んでいる海外の大学(以下「協定校」)に、所属教育組織の長の許可を得て留学することを「交換留学」といいます。

交換留学の場合、留学期間は本学の修業年限および在学年限に編入され、留学先で取得した単位は、教員会議等の議を経て、一定条件のもとで本学の卒業要件単位として認められます。さらに、授業料相互不徴収の取り決めがある協定校では、留学先大学での授業料は不徴収となります。留学期間は1年以内(最大2年間)です。

◆Campus-in-Campus(CiC)

Campus-in-Campus(CiC)とは、CiC協定を締結した海外の大学と筑波大学との間で、学生、教員、研究者、職員が大学の壁を越え

て活動するために、相互に、研究教育環境をキャンパス内に取り込み活用することを目指します。2019年2月現在で6ヵ国・地域の大学と8協定を結んでいます。

CiC大学において「科目ジュークボックス」に登録されている科目は本学の開設科目として履修でき、取得した単位は卒業要件単位として認められます。また、留学先大学の授業料は不徴収となります。

◆短期海外研修

本学の教育組織等が実施する海外研修プログラムに参加するものです。内容は語学研修、専門的な講義の受講、海外での実地研修等プログラムによって様々です。プログラムによっては本学の開設科目として実施され、単位が付与される場合があります。また、参加費・受講料が必要となる場合があります。留学期間は1週間～1ヶ月程度が多くなっています。夏季・春季休業期間中に実施されるプログラムもあります。

(QRコード)大学HP-国際-グローバル・commons機構



本学が目指すグローバル人材は、「確固たるアイデンティティ」と十分な専門性を持ちながら多様性を活かす柔軟性を発揮し、あらゆる国、組織や分野の壁を越え、協力関係を構築し、グローバルな活動を牽引できる人材」です。本学の学生には、ぜひ在学中に本学が提供する国際交流プログラムにチャレンジして、グローバル社会に貢献できる能力を身に付けていただきたいと思います。

海外留学のための経済支援一覧

筑波大学では学内外からの各種経済支援により、学生の海外留学・海外派遣を後押ししています。

●筑波大学海外留学支援事業 はばだけ! 筑大生

①国際交流協定校交換留学支援プログラム
本学と海外の大学等との間で締結された学生交流協定に基づき、海外の大学等に留学する者を対象に、滞在費の一部を支援します。(月額上限80,000円)
②キャンパスインキャンパス(CiC)等支援プログラム
CiCパートナー大学又はダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム等(DDP等)を実施する大学との間で締結された協定書に基づき、海外の大学で学修・調査・研究を行う者を対象に、旅費・滞在費の一部を支援します。(月額上限80,000円、ただしCiC短期は1人あたり上限150,000円)
③海外武者修行支援プログラム
優れた企画と発表能力を持って海外に出向き、現地での活動を行う者により任意結成された学生グループ(数人～7人程度)を対象に、旅費の一部を支援します。(1人あたり上限200,000円)
④海外学会等参加支援プログラム
海外で開催される国際学会、シンポジウム、研究会等へ出席して、研究発表を行う者を対象に、旅費の一部を支援します。(上限150,000円)
⑤語学研修・海外研修参加支援プログラム
本学主催、学内組織主催又は共催して海外で開催する語学学習を伴う研修や、専門科目に関する学修、調査・研究などの海外研修プログラムに参加する者を対象に、旅費の一部を支援します。(1人あたり上限100,000円)

●筑波大学基金開学40+101周年記念募金海外留学支援事業

協定校に短期間(1年以内)留学する学生に対して奨学金による支援を行います。(月額100,000円および渡航費の一部)
--

●官民協働海外留学支援制度 トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム

官民協働の海外留学支援制度として平成26年度からスタートしたプログラムで、諸外国の大学等といった教育機関での留学だけでなく、学生が自ら定めた明確な目的と意欲的な目標に基づき立案した実践活動の含まれる留学計画に対して奨学金が支給されます。(月額60,000～160,000円)

●日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度(協定派遣)

教育組織等が実施するプログラムにより、8日以上1年以内の期間で海外の協定校に派遣される学生に対して、JASSOが奨学金を支給する制度です。(月額60,000～100,000円)
--

学生の一週間

ここでは、学生2名の1週間のスケジュールを例に、筑波大生が普段どのような生活を送っているのかを紹介します。今回は秋学期Bモジュール(11月～12月)です。

医学類3年 Yさん

実家から大学に通っており、平日の自由時間には、テレビを見たり、家族と雑談をしたりしています。部活は医学バドミントン部に所属し、アルバイトは塾講師をしています。休日の自由時間には、買い物に行ったり、友人と遊んだりしています。試験が近づいてくると、自由時間はほとんど勉強しています。

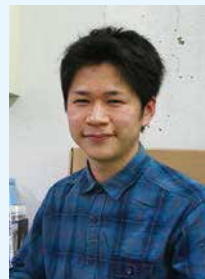
	月	火	水	木	金	土	日
6	睡眠	睡眠	起床・朝食	睡眠	睡眠	起床・朝食	睡眠
7		起床・朝食	通学	起床・朝食	起床・朝食	通学	起床・朝食
8	起床・朝食	通学		通学	通学		部活
9	自由	授業	授業	授業	授業	部活	
10	通学						授業
11	通学	授業	授業	授業	授業	帰宅	自由
12	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食		
13	授業	授業	授業	授業	授業	帰宅	自由
14							
15	部活	友人と夕食	部活	部活	バイト	夕食	夕食
16							
17	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅	入浴等	自由	自由
18							
19	睡眠	入浴	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
20							
21	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
22							
23	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
24							
1	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
2							
3	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠

情報科学類3年 Yさん

筑波大学の近くで下宿をしており、昼食は主に学食を利用しています。趣味の時間では読書をしたりラジオを聞いたりすることが多いです。所属している体育会の部活、委員会活動、授業をしつつ就職活動(インターン・企業面接)を行う時間を確保するため、バイトは平日夜のシフトに入れることが多くなっています。近所のカラオケ店でバイトをしています。

	月	火	水	木	金	土	日
6	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
7	起床・朝食				起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食
8	授業	起床	起床	起床	支度	部活	TVを観る
9		授業	授業				
10	授業	授業	ゼミの準備	起床	東京へ移動	部活	昼食
11	授業	授業	ゼミの準備	起床			
12	昼食	通学	授業	通学	企業説明会・面接	昼食	趣味
13	帰宅	通学	通学	通学			
14	自由	授業	ゼミ	授業	つくばへ帰る	自由	趣味
15	通学		ゼミ				
16	授業	授業	授業	授業	つくばへ帰る	バイト	買い物
17	授業	授業	授業	授業			
18	部活	部活	帰宅	委員会活動	部活	夕食	夕食
19	部活	部活	趣味	委員会活動	部活	帰宅	課題
20	夕食	夕食	仮眠	帰宅・入浴	夕食	入浴等	
21	帰宅・入浴	帰宅・入浴	夕食	夕食	夕食	趣味	趣味
22	趣味	ゼミの準備	バイト	趣味	帰宅・入浴		
23	趣味	ゼミの準備		バイト	趣味	趣味	趣味
24	睡眠	睡眠	バイト		睡眠	睡眠	
1				睡眠			睡眠
2	睡眠	睡眠	バイト		睡眠	睡眠	
3				睡眠			睡眠
	睡眠	睡眠	バイト		睡眠	睡眠	
				睡眠			睡眠

大学院進学報告



応用理工学類
4年

市川卓人

初めまして。本稿では私が大学院に進学した理由と研究を通して学んだことについてお話ししたいと思います。

(大学院進学理由)

大学院に進学した一番の理由は、研究室で進めている卒業研究テーマの最終的な目標に強い魅力を感じたことです。私の卒業研究テーマは、簡単にいえば「従来の顕微鏡技術に、研究室の技術を組み合わせ、新しい機能を持った顕微鏡を開発する」ことを目標としたものです。もし顕微鏡の開発に成功すれば、将来の産業や研究がますます発展すると考えています。このようなテーマを頂いた今の研究室で研究を続けたいと思い、大学院に進学することを決めました。

(研究室で学んだこと)

私は4年次に研究室に所属してから約1年になります。研究を続けていて「よく学び、よく考え、諦めない」ことの重要性を再認識しました。研究における実験とは、授業の実験よりも長い時間を

かけることができる一方で、なかなか成功しない難しさがあるものです。同時に、どんなに難しくても諦めずに方法を改善し続ければ、成功する可能性があるというものでもあります。私は先生に付き添ってもらいながら、あえて難しい実験に挑戦し、諦めずに何度も調整を繰り返し、遂には成功させた経験からこのことを学びました。貴重な経験だったと思います。

これからも大学院の2年間を大切に過ごし、多くのことを学びながら目標に近づけるように研究を進めていきたいと思っています。



卒業研究で用いた装置



知識情報・図書館学類
4年

松岡 栞

はじめまして、図書館情報メディア研究科に進学することとなりました、松岡と申します。みなさまの大学院進学を検討する際の材料となれば幸いです。

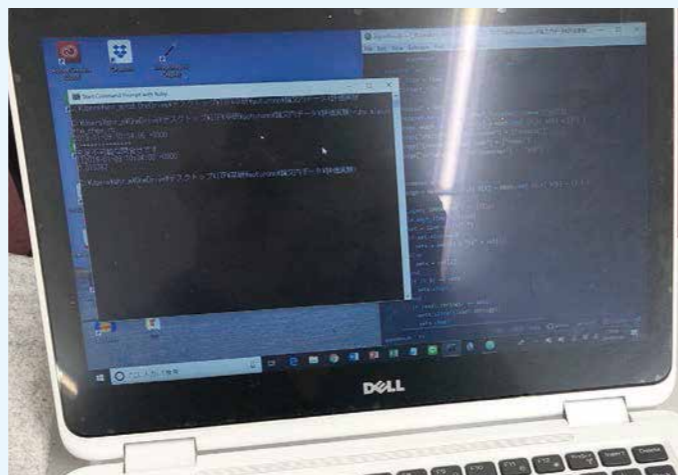
(研究を通して学べること)

大学院進学と聞くと、多くの方は「難しそう」「研究大変そう」といったイメージを持たれるかと思いますが、私も3年生の2月頃までは同じように思っていました。しかしながら、12月に配属された研究室の先生や先輩方と相談し、自身の卒業研究のテーマを確定していく中で考え方が変わり始めました。

「研究」と一言にまとめてしまうと、とても難しいもののように聞こえますが、その研究に1年間付き合うとその分野に多少は知識をもつことができます。そして、学べば学ぶほど力がつき、さらに新しい知識を蓄えることが可能になります。当然、研究生活では思うようにいかないこともあります。しかし、そのようなときに蓄えた知識は力となって助けとなってくれます。また、知識だけでなく自身の研究を他の人に伝える力であるプレゼン力をつけること

も出来ます。まだ自分の研究テーマを持ち、研究を始めて1年未満ですが、これまでに3回行ったプレゼンは徐々に良くなっていることを実感しています。なんのために研究をするのか、その疑問の答えは十人十色ではありますが、将来研究者とならなくとも役に立つ技能を身に付けることができるのではないかと思います。

ぜひ、他の情報も調べて大学院生活をイメージして頂ければと思います。



研究で作成しているプログラム

平成30年度 筑波大学卒業式のご案内

■日時 平成31年3月25日(月)
■会場 筑波大学 大会館講堂

【第一回】

対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設

入場 8:50~9:10
開式 9:30 閉式 10:15

【第二回】

対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

入場 10:50~11:10
開式 11:30 閉式 12:10

平成30年度 筑波大学大学院学位記授与式のご案内

■日時 平成31年3月25日(月)
■会場 筑波大学 大会館講堂

入場 13:10~13:40
開式 14:00 閉式 14:55

※式の時間については予定時刻となっております。進行の都合上、変更となる場合がございますので、ご了承ください。

平成31年度 筑波大学入学式のご案内

■日時 平成31年4月8日(月)
■会場 筑波大学 大会館講堂

【第一回】

対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設

入場 8:40~9:10
開式 9:30 閉式 9:55

【第二回】

対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

入場 10:40~11:10
開式 11:30 閉式 11:55

平成31年度 筑波大学大学院入学式のご案内

■日時 平成31年4月8日(月)
■会場 筑波大学 大会館講堂

入場 13:10~13:40
開式 14:00 閉式 14:25

卒業式・大学院学位記授与式、入学式・大学院入学式 共通連絡事項

ご家族の方は、講堂収容定員の関係により大会館内の別会場でのスクリーン視聴となりますことをご承知願います。また、式典は、当日インターネット中継を行います。中継URLは式典前日に本学ホームページにてお知らせいたします。なお、駐車場は非常に数が限られておりますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

詳細は、本学ホームページをご確認ください。 <http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/ceremony/>

問合せ先:筑波大学総務部総務課 029-853-2025 (平日 9:00-17:00)



筑波大学紫峰会基金WEBサイトの公開について



この度、筑波大学紫峰会基金WEBサイトを公開しました。寄附のつかいみちや、学生支援業務などを紹介しています。



URL: <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihoukai/>

宿泊施設・館内食堂のご案内

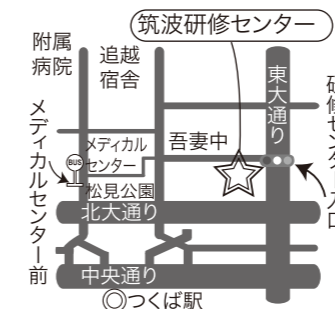
紫峰会基金協力者と旧紫峰会会員の方は1泊200円割引します

筑波研修センター

・1泊3700円より(食事別)
・シングル145室・ツイン5室・和室5室
筑波大学同窓会「茗溪会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時にお申し出下さい。

館内食堂 こうせい

・朝食500円均一
・定食750円より
バイク形式、懇親会、パーティも承ります。内容、料金など気軽にご相談ください。(座席80名・立食可)



〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886

E-mail center@meikei.or.jp URL <http://www.meikei.or.jp/~center/>

紫峰の風 第11号 2019年2月発行

発行 事業開発推進室

編集 学生部学生生活課

学生広報会議

軽辺凌太・地球1年、河原井かれん・芸専1年、
栗山宏斗・応理2年、洪浩麟・芸専1年、
駿河くるみ・心理1年、瀬邊風馬・日日1年、
根岸駿太郎・医学1年、松村岳・芸専2年

広報部会

黒川真臣・生命環境3年、米山和文・数理物質2年、
仲清峻・知識4年、山岸素子・知識2年

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸専2016年度卒)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話:029-853-5886

E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

学生広報会議



各学生組織の広報担当（文化系サークル連合会(文サ連)、芸術系サークル連合会(芸サ連)、体育会、体育会医学部会、全学学類・専門学群代表者会議）と広報部に所属する学生、及び紫峰会業務推進室の職員で構成されています。会議は基本的にメンバーの授業の空き時間で行っていて、おおよそ週に1コマです。会議では各団体について情報共有をした後、紫峰の風の制作のための話し合いや作業を行います。

会議で行うこと

情報共有…各学生組織の今後の日程等を共有します。

取材報告…取材担当者から取材時の様子を報告します。

企画…紫峰の風のレイアウトから始まり、各記事の内容(何を取り上げるのか、取材をするのか、寄稿をお願いするのか)を話し合っ決めてます。

進捗確認…それぞれの記事に担当を決めて記事を執筆するため、担当の人が毎回進捗を報告します。

日程調整…次回の学生広報会議や発送作業の日程を決めます。



取材

学生広報会議である程度内容が固まったら、記事の取材先や取材の方法を決め、実際に取材を行います。取材では、大学のイベントや式典の様子を写真に収めたり、その場にいる人にお話を聞いたりします。寄稿記事のキャンパスニュースや大学の風景のコーナーに載っている写真も含め、全代会・文サ連・芸サ連・体育会の活動紹介の写真を除いたほとんどの写真は学生広報会議のメンバーが撮影しています。

写真選抜



取材で撮影した写真の中で、実際に紫峰の風に掲載するものを選抜します。写真の選抜は基本的に学生広報会議のメンバー全員で行います。左の写真からもわかるように、予め撮影者が選んだ複数枚の写真の一つ一つ全員で見ていき、一番ふさわしいものを選んでいきます。写真を選ぶ際には、ぶれたりぼやけたりしていないか、その記事に合っているか、どのシーンを撮った写真かわかるか、魅力的であるか、などを基準に選抜しています。写真がふんだんに使われていることやカラー印刷の媒体であることが紫峰の風の大きな特色なので、これらの特色を最大限生かせるように、写真選抜はきちんと行います。

紫峰の風が届くまで

みなさんが今読んでいる紫峰の風がどのようにして作られているのか、ご紹介します。作られる過程を知ること、また新しい視点からも紫峰の風を楽しんで読んでいただくと幸いです。

発送作業



文サ連、芸サ連、体育会に所属する団体の協力のもと、紫峰の風を保護者のみなさんにお届けするための作業を学生主導で行います。発送作業は毎号2回に分けて行っており、文サ連と芸サ連に所属する団体から約70人、体育会に所属する団体から約120人が参加し、合計約10,000部の紫峰の風等の袋詰めと宛名ラベル貼りをを行います。最後に準備したラベルの枚数と完成した封筒の部数を確認し、一致したら完了です。その後、郵送にてみなさんの元へと届きます。また紫峰の風は、保護者のみなさんにお届けしているもの以外に、学内各所でも配布しています。



校正



紫峰の風を作るにあたっては、何重にも確認作業を行います。まず回収した原稿は担当者が校正したうえで、学生広報会議のメンバーにドライブ等を利用して共有します。その後、広報部会のメンバーが共有された原稿を確認し、不適切な表現や統一されていない文言がある場合は担当者と連絡を取って訂正します。さらに、印刷を依頼している業者さんとのやり取りで、フォントや文字数などの細かい部分の体裁の微調整を行います。最後に、もう一度学生広報会議で読みあわせて、間違った情報や解釈の齟齬が起りそうな文章がないか最終確認をします。このようにして紫峰の風を見てくださるみなさんがより快適に読めるよう日々努めています。

広報部会

学生広報会議のOB・OGの学生と紫峰会業務推進室の職員で構成されています。主に学生広報会議の準備、進捗の確認、取材者の調整、紫峰の風の作成に関わるデータの管理などを行なっています。学生広報会議を実施した後の時間で打ち合わせをしたり、学生広報会議メンバーに連絡を回したりするなど裏方の仕事が多いですが、この人たちのおかげで紫峰の風の制作は円滑に進んでいます。

芸術系サークル連合会活動紹介 ～芸サ連をもっと知りたい～



雙峰祭での落語会の様子

落語研究会

こんにちは、落語研究会です。当研究会では、日本の伝統芸能である落語の所作やそこに描かれている文化を研究するとともに、それらを実演することで日本文化の深い理解を目指しています。着付けの仕方から落語の演じ方まで、会員達で教え合い、意見交換をしながらより完成度の高いパフォーマンスが出来るよう日々研鑽しています。また落語だけでなく漫才なども取り扱い、総合的に見た「笑い」というものについても探究しています。普段はイベントスペースを利用した定例落語会の開催に加え、自治体や福祉施設などの依頼を受けての公演などをおこなっています。また落語の大会などにも出場し、自分の力を試すと共に、そこに集まる人達とも交流し、落語に親しむ人達の輪を広げています。

(寄稿/落語研究会 加藤万依・比文3年)



第3エリア前での公演の様子

ときめき太鼓塾

私たちときめき太鼓塾は、和太鼓などを使った演奏を行う団体です。現在は12人で活動をしており、うち4人は留学生で、和太鼓がいかに海外の方の関心を集めているかを感じます。塾生たちは大学に入ってから和太鼓を始めた初心者が大半ですが、互いに切磋琢磨し、皆様に良い演奏を届けようと努力しています。練習は週2回で、それに加えて公演練習や春・夏の合宿などを行っています。また公演は学外で行うことが多く、年間の公演数は20～30回ほどになります。和太鼓の大きな音は、からだに響いて心地が良いものです。ある福祉施設での演奏では、演奏に感動して泣いてしまったというお言葉を頂き、私たちも非常に嬉しい思いでした。雙峰祭やつくば駅周辺のイベントでも演奏を行っているの、見かけた方は是非聞いてみて下さい。

(寄稿/ときめき太鼓塾塾長 猪瀬百合子・生物2年)



平成29年度 定期演奏会

ブロックフレーテ同好会

ブロックフレーテとはなんですか？ 私達はよくそんな質問をされます。ブロックフレーテとはドイツ語でリコーダーのことを言います。リコーダーって小学生とか中学生がやる楽器のイメージですよね。確かに、誰だって息を入れれば音が出て、さらには運指も簡単。そんな理由で音楽の授業で使われています。それを大学生が今更、なんてこともよく言われますが、実はなかなか奥が深い。私達はそんなリコーダーの奥深さを探索していくサークルです。会員は20名弱という少数ではありますが、各々の個性をぶつけ合いながら切磋琢磨しています。普段は雙峰祭や定期演奏会などで発表をしています。また、近年は外部での演奏も積極的に行っています。私達の演奏を、そしてリコーダーの魅力をもっと多くの方に伝えるべく、励んでいます。機会があれば、ぜひ一度聴きに来て下さい。

(寄稿/ブロックフレーテ同好会 柴田瞳子・知識2年)



渉外活動の一環である卒業式の準備風景

THK筑波放送協会

こんにちは！ THK筑波放送協会は、総勢25人で活動する放送サークルです。活動内容は主に、定期的に発信するもの、渉外依頼を受けるものがあります。定期的な発信はまず、つくばのローカルテレビ局であるACCSで放送中のTV番組「P-CUBE」。基本毎月更新され、季節のニュースと会員が制作した映像作品を放送しています。次にFM84.2MHzで放送中のラジオ番組「THKラジオ学類!」。こちらは毎週更新で、会員をパーソナリティに、お悩み相談などの企画を行っています。最後に、「番組発表会」。こちらは夏と雙峰祭に行っており、様々な内容、コンテンツの力作が発表されます。ここに大学内や地域から依頼された渉外活動が加わります。サークルとしての歴史も長く、「0から1」に熱いメンバーが集まって様々な活動を支えています。他大学との交流機会も大切に、今後もつくばからの発信を続けていきます！

(寄稿/THK筑波放送協会運営委員 中沢芽伊・知識1年)

文化系サークル連合会活動紹介 ～文サ連をもっと知りたい～



読書会で部員が感想を言い合っている様子

文芸部

普段は「肩ひじ張らずに文章を楽しむ」というのをコンセプトに活動しています。部員が書いた作品を読み、その後意見交換をするという内容の読書会というものを毎週しており、私も作品を持って行ったことがあります。先輩方も暖かい感想を下さり嬉しかったのを覚えています。強制的に作品を書いてくるといったゆるいスタイルで活動しています。春日エリアで活動しておりますが、部員は春日キャンパス以外の人も多いです。また年に何回か「樹林」という部誌も発行しております。なかなかボリュームがあって楽しい冊子です。部員の数も多すぎず少なすぎず、和気藹々とした雰囲気漂うサークルです。

(寄稿/文芸部部長 河原歩夢・エシス1年)



屋内プールでの練習風景

海洋研究会

私たち海洋研究会は現在3年生が引退し、学群1年生21名、2年生12名の合計33名で活動しています。日々の主な活動として毎週のミーティングと屋内・屋外プールでの泳ぎ・潜水の練習を行っています。屋外プール練習では水深が5メートルのプールを生かして実際の海でも潜れるように練習をしています。夏には夏合宿に行き、実際に海で魚を見て海や魚についての知識を深めています。今年は伊豆、式根島などに合宿に行ってきました。また、雙峰祭ではパネルや解説、サークル構成員が飼育している魚などを用いて来場者の方々に実際の海の魅力を伝える活動をしています。その他救急救命講習など、安全にも考慮しながら活動を行っています。

(寄稿/海洋研究会会長 遠藤慎・資源2年)



一の矢での作業風景

園芸クラブ

本サークルでは、水曜日にミーティングと土曜日に花壇・畑等での作業を行っています。ミーティングは文化系サークル会館の園芸クラブのブースで行っています。本サークルの管理している花壇・畑は、一の矢学生宿舎共用棟前の畑、平砂学生宿舎共用棟前の花壇、筑波大学附属病院前の花壇の3か所です。病院前の花壇については、病院の方々と芸術専門学群の方々と協同で管理を行っています。これらの花壇・畑で毎週土曜日に作業を行い、管理をしています。また、合宿や、育てた野菜を用いた料理会、学園祭出店等のイベントも行っています。人数はあまり多くありませんが、その分仲の良いサークルです。自分の手で土に触れ、心を込めて大切に植物を育てています。

(寄稿/園芸クラブ運営委員 福丸敬之・資源1年)



雙峰祭ライブの様子

TOJO K-ON

筑波大学公認軽音楽サークルTOJO K-ONは、邦楽、洋楽等のジャンルを問わず、幅広い音楽好きが集まって楽しみながら音楽を究めていく、そんなサークルです。アットホームな雰囲気ながら、毎月熱いライブを開催しています。現在学群1年生から修士2年生まですべての学年が幅広く在籍しており、総部員数は約100名を数えます。大きなサークルに成長した今日も、部員全員が友人のように仲が良く、このサークルらしさを失っていないことが喜ばしく、誇らしさすら感じています。筑波大学に存在する他の軽音楽サークルとの交流も行っており、合同ライブの開催などを通して音楽生活と大学生生活の充実を目指しています。

(寄稿/TOJO K-ON代表 丸倉孝・応理2年)

1年間を振り返って

芸術系サークル連合会

第42期運営委員長
稲葉彩月(人間学群教育学類2年)



2018年度の芸サ連執行部の目標は「めげない、しょげない、頑張りすぎない」でした。その目標のもと、各々が自分に与えられた仕事を遂行しつつ、一人で抱え込まないように協力し合いながら支えあって運営してきました。執行部に限らず、芸サ連の運営委員や責任者の方々も、芸サ連の一員として責任をもって支えてくださいました。私自身、周りの支えのおかげで、ここまでのことができたという実感がとても大きいです。

しかし、1年間という期間の中で、委員長として至らないところや、やり残したことがたくさんありました。その一つとして、つくば芸術祭復活への試みがありました。つくば芸術祭はかつてつくばセンターにおいて芸サ連の主催で各団体の発表を行い、地域を活性化する目的で行われていました。芸サ連の活動を大学内外に広めるために、今年度内にまずは学内開催を目指そうと尽力してまいりましたが、力及ばず開催できなかつたことが心残りです。しかし、開催はまだあきらめていません。次年度には芸サ連の幹事として、新執行部をサポートしつつ私の想いを引き継いでもらい、開催に向けて少しでも前進していけたらいいなと思っています。

また、この1年間私たちの活動を支援して下さった方に感謝の意を表したいと存じます。これからは芸サ連は伝統と革新を続けていきますので、何卒ご支援の程よろしく願います。

文化系サークル連合会

第43期運営委員長
下村隼生(理工学群化学類2年)



「光陰矢の如し」、そのことわざが最近私の中で強く感じられます。私が文化系サークル連合会の運営委員長としてやっていけるのか不安を抱えていた2018年1月からあっという間に任期終了となりました。振り返ると反省する点や後悔する点が数多く思い出されます。

就任した際、私はこの紫峰の風の記事で、伝統と革新の話をしました。文化系サークル連合会は43年の歴史を持ち良き伝統を持っているが、それと同時に悪しき伝統や新しくすべき点も存在しそれらを改善していきたい、私はそういったことを目指していました。しかし実際のところは文サ連とは私が想像していたよりも奥が深く、難解な物でした。そのため数多くの方々にご迷惑をおかけし、多大なお力添えをしていただきました。その中で私は文サ連という組織がとても多くの方々や繋がっているということを知りました。各サークルの方々はもちろん、学生生活課の職員の方、全代会、体育会、芸サ連、様々な人々と関係を持ってきました。自分たちはこれだけ多くの人たちに支えられて、複雑な関係を築き上げている、だから奥深く広さを持っているのだと、自分の見えていない世界が少しだけ理解できた気がします。

そういった組織を運営したこの一年、ようやく自分でも運営委員長が板についてきたこの時期に任期を終えてしまう、それが残念で仕方がありません。今後は幹事会として後輩たちにこの一年間で学んだことを生かし、より良い運営に努めていきたいです。

体育会執行委員会

第42代委員長
神田敬邦(体育専門学群3年)



体育会執行委員会第42代委員長を務めさせて頂きました、神田敬邦と申します。

第42代発足にあたり体育会執行委員である私たちが感じたこと、それは「構成員の体育会への帰属意識の低さ」でした。体育会は、日本一を目指す部会の団体から、楽しむことを重んじる同好会といった、扱う競技や活動理念の異なる様々な団体からなっています。私たちは一年間の体育会目標を『つながり』と掲げ、構成員のつながりを深め帰属意識を高めることを目指しました。より広く体育会のことを知ってもらおうと、新入生歓迎祭でのPVの上映や、代表者親睦会の開催といった新たな施策にチャレンジし、これまで以上に構成員と向き合うことができました。

これらの活動を通し、私は体育会が担う役割とは何か考えました。現在筑波大学は、アスレチック・デパートメントを設置し、スポーツを軸にした大学の価値の最大化を図っています。スポーツにはまだ見ぬ可能性があり、筑波はその可能性を広げられると期待されています。私たち「体育会」というスポーツを司る組織は、筑波大学の価値を高めることができる組織なのではないでしょうか。(ここでは価値という言葉の定義はしないこととします。)あらゆる『つながり』が深まった先に、まだ見ぬ体育会の価値や魅力が増した理想的な姿があると信じ、その姿をこれからも追いかけていきたいです。

一年間、私たちの活動を支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。今後とも筑波大学体育会を宜しく願います。

全学学類・専門学群代表者会議

平成30年度 議長
四家武彦(情報学群知識情報・図書館学類2年)



全代会議長に就任してまもなく一年が経過します。当初掲げた目標は達成できた部分もあれば及ばない部分もありました。そして議長として全代会の諸々を日々考え続けた一年だったと思います。

今年度特に問題視されたのが会議への出席率でした。状況は深刻で今年度の大きな失態と捉え責任を痛感しています。事態の根幹は学生が望んだ「全代会」という仕組みが学生間で蔑ろにされている現状にあると考えます。組織や社会との関わりに対する意識の変化や学内問題の減少が後押しし、全代会の存在意義を見出せない学生が少なくないのかもしれない。

今年度は“価値創出”を掲げ全代会やクラス代表者会議等の学生組織を捉えなおすつもりでした。受身で対処する姿勢を捨て“これはどうでしょう”と+αをもたらし提案力と実行力で組織の意義を再形成するのです。委員会活動等を積極的に実施し達成できた面もありました。

しかし不安定な体制の解消には至らず、迫る入試制度変更も視野に抜本的な制度改革を検討中です。全代会の将来を形作る重要な案件であり次年度の構成員には強く託します。結びに、全代会の活動にご理解とご協力を賜った保護者・支援者の皆様、ならびに筑波大学の教職員の皆様に感謝を申し上げご報告とさせていただきます。

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介 ～全代会をもっと知りたい～

学内行事委員会



学園祭実行委員会委員長陣の承認審査の様子



第一回学生組織連絡会の様子

<委員会紹介>

学内行事委員会は、学園祭など学内行事の企画・立案と、学園祭実行委員会をはじめとする下部組織の監査・監督及び他組織との連携・協力を行うための委員会であり、現在は約10名で活動しています。

<活動紹介>

毎週木曜日にミーティングを開催し、委員会内で情報共有を行ったり、委員会全体で審議を行ったりしています。

学内行事委員会の活動で関わる主な組織および会議には、次のようなものが挙げられます。

・学園祭実行委員会

意見聴取会や本会議での審議を有意義なものにするために、学園祭実行計画書などの書類を事前に校正・校閲します。必要に応じて学内行事委員会の中で審議したり、学園祭実行委員会と話し合いの場を持ったりもします。

・スポーツ・デー学生委員会

委員会の中から担当者がスポーツ・デー運営委員会会議に出席し、スポーツ・デー実行計画書の審議を行います。

生活環境委員会

<委員会紹介>

生活環境委員会は、全代会の会議などを通じて、学生の生活に関わる施設、設備、制度をより良いものにするための活動をしている委員会です。現在は約10名の委員で活動しています。

<活動紹介>

学生からの依頼等をきっかけにアンケートや実地調査を行います。調査委員会や教育環境委員会と協力して調査活動を行ったり、広報委員会にポスターの作成を依頼したりするなどして、学生の生活の質の向上に貢献できるよう努めています。

生活環境委員会が今年度おもに取り組んだ活動には以下のようなものがあります。

・駐輪場の改善

学生を対象として駐輪場の利用状況に関するアンケートを行い、現状の把握を試みました。その後、交通問題や駐輪場に関する情報の提供に関して学生生活課と協議しました。また、放置自転車の撤去にも取り組んでおり、学生主体で自転車の管理活動に取り組もうとしています。

・学生財務会議

委員会の中から担当者が学生財務会議に出席し、課外活動団体の援助金申請に関する審議をします。また、学類新歓援助金等について全代会から援助金申請などの手続きを行います。

・課外活動団体

委員会の中から担当者が課外活動団体会議（通称、三系会議）に意見参考人として出席し、課外活動団体である文化系サークル連合会・芸術系サークル連合会・体育会との問題共有の役目を担います。

・学生組織連絡会

例年、各学生組織（全代会議長、全代会学内行事委員会、全代会新歓特別委員会、文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会、学園祭実行委員会、宿舎祭実行委員会）が情報共有・意見交換を行う場として、学内行事委員会が主催して学生組織連絡会を開催しています。

・キャンパス交通システムに関する関東鉄道バスとの打ち合わせ

6月下旬に学生3名（うち生活環境委員2名）、学生生活課3名、関東鉄道バス2名の三者で大学循環バスについて話し合いを行いました。話し合いの中で、つくばセンター発の時間変更による接続改善検討および、バスロケーションシステム[※]導入検討の要求などを行いました。
※スマートフォンやパソコンを使用して、現在運行しているバスの位置情報やバス停への到着予定時刻などを検索できる仕組みのこと。

・交通安全会への出席

委員会の中から担当者が大学構内の駐車場についての会議に出席しました。会議では、駐車場維持の経費や予算、維持管理に関する問題について話し合われました。

・福利厚生委員会

委員会の中から福利厚生委員会の学生委員を選出し、業務委託業者選定委員会などの各種関連する委員会に出席しています。

体育会活動紹介 ～体育会をもっと知りたい～



東海村杯試合写真

フィールドホッケー部

フィールドホッケー部は、体育会に所属する団体で、関東学生ホッケー連盟が主催する関東学生リーグで優勝することを目標に活動しています。活動は平日2日と土日にグラウンドで練習をしています。また、月に1度ほど他のチームと練習試合などを行っています。長期休暇などには、他大学を招待して、栃木県で試合形式の夏合宿を行っています。昨年度は、秋リーグでは1勝しかできなかったものの、1年生が多くの実践機会に触れ、来年につながる内容で締めくくりました。来年度は新2年・3年生を中心に、勝てるチームにするべく頑張っていきます。また、部員の数が少ないため、多くの部員獲得を目指しています。

(寄稿/フィールドホッケー部主将 石山智隆・人文3年)



インカレの様子

男子バスケットボール部

こんにちは、男子バスケットボール部です。昨年度は、団結して勝利へと突き進む一心と、今までの現状から変革を起こし、新しい筑波のスタイルを追求していく一歩、この2つの意味から「一心」をスローガンに掲げ、「4冠(トーナメント・新人戦・リーグ戦・インカレ)」を目標に日々切磋琢磨して練習に励んで参りました。しかし、昨年度はトーナメント優勝、新人戦第5位、リーグ戦第4位、インカレ第4位と「4冠」という目標には届きませんでした。今シーズンは、Aチームは4冠、Bチームは国公立大会優勝、関東甲信越大会連覇を目標に、昨シーズンの雪辱を果たすべくチーム一丸となり、さらなる飛躍に向かいチーム全員で練習によりいっそう励んで参ります。

(寄稿/男子バスケットボール部副務 井上陽路・知識3年)



練習風景

準硬式野球部

私たち準硬式野球部は、集団の中での自分の役割を自覚し、人の関わり方の大切さを学ぶことを目的として活動しています。

部員の学類は様々で、現在は1年生9人、2年生11人、3年生2人、マネージャー3人の計25人で活動しています。多くはない部員数ですが、練習中はお互いの良い部分も悪い部分も指摘し合いながら、この人数だからこそできる練習メニューを考え、部活に取り組んでいます。

私たちは東都準硬式野球連盟に所属し、現在は3部リーグで戦っています。今年度秋季リーグ戦では「3部リーグ優勝、2部リーグ昇格」を目標にしていたのですが、3位という悔しい結果に終わってしまいました。引退された先輩方の無念を晴らすためにも、春季リーグ戦こそは目標を達成したいです。そのために関東大会や関東甲信越大会に出場し、夏には合宿を行い、目標を達成できる力を培っていきます。

(寄稿/準硬式野球部マネージャー 川上夏海・人文2年)



練習風景

フェアリースキークラブ

フェアリースキークラブは基礎スキーの同好会です。基礎スキーとはスピードではなくスキーの滑りの美しさを競う競技です。シーズン中の週末や長期休暇を利用して合宿を組み、スキーに励んでいます。2018/19シーズンは会津高原高畑スキー場をホームグラウンドとして活動し、短いものでは日帰り、長いものでは4泊5日の計6回の合宿を予定しています。部員のレベルは様々ですが、それぞれの部員が検定や大会を目標にしています。検定はSAJ(全日本スキー連盟)が主催するもので基礎スキーの技術の指標となっています。また、全国学生岩岳スキー大会の基礎スキーの部に参加しています。オフシーズンはスキーと動きのよく似たインラインスケートや筋トレなどをしてシーズンに備えています。

(寄稿/フェアリースキークラブ主務 坂本裕基・エシス3年)



ハードル走

医学陸上競技部

医学陸上競技部の総部員数は91名で主に医学群の3学類の学生が所属しています。大学から始めた人から経験者まで幅広く活動しており、毎週月・水・金・土の週4回で練習しています。また、部活外でレクリエーションを行ったり、陸上同好会と一緒に練習を行ったりしています。私達は全関東医歯薬獣科大学対抗陸上競技会(全関東MDPV)・東日本医科学生総合体育大会(東医体)・関東医科大学対抗陸上競技大会(関東医科)の医学系3大会総合優勝を目標に日々練習に励んでいます。直近では全関東MDPVと関東医科で男女総合優勝、東医体で男女共に総合2位という結果を残しています。

(寄稿/医学陸上競技部主将 松永拓也・医学3年)



ホームに生還

医学準硬式野球部

我々医学準硬式野球部は、北関東準硬式野球連盟に所属しており、春と秋に行われるリーグ戦での優勝、そして8月の東日本医科学生総合体育大会(東医体)での優勝を目標に掲げています。活動日は火・木・土曜日の週3回で、火曜日は守備練習、木曜日は打撃練習、そして土曜日は実戦練習を行っています。私たちには指導者がいないため、自分たちで練習メニューを考え、お互いに教え合いながら練習しています。昨年は16年ぶりに東医体で3位になることが出来ましたが、その結果に甘んじることなく優勝を目指して練習に励みたいと思います。

(寄稿/医学準硬式野球部主将 武口航・医学3年)

芸サ連に所属する演劇サークル紹介

筑波大学では数多くの様々なサークルが活動を行っています。中でも劇団サークルはどの団体も魅力的な公演を行っています。今回は芸術系サークル連合会に所属する劇団サークル3団を紹介させていただきたいと思います。気になる劇団があれば是非公演をご覧ください。

劇団筑波小劇場

筑波大学には演劇サークルが4つありますが、我々劇団筑波小劇場はコメディから抽象劇まで幅広く行う劇団として活動しています。脚本、演出をはじめ、音響効果や照明効果といった舞台装置や、舞台美術なども自分たちで工夫して作り上げています。役者はもちろん、照明や音響などの裏方の仕事も演劇という一つの創作物を作り上げるためには欠かせない要素であり、どちらにも固有の味わい深い楽しさがあります。是非その集大成である公演を見にいらしてください。

(寄稿/劇団筑波小劇場部長

長谷川彰大・人文2年)



2018年度学園祭公演での集合写真

人形劇団NEU

大人も子供も楽しめる人形劇の世界を、学内外問わず様々な場所でお届けしています。使用する人形たちも団員がーから作成する、美術的側面も強い活動が特徴です。また、国内最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」をはじめ学外のイベントへも参加し、他劇団の作品を鑑賞し、さらには自分たちも積極的に作品を上演しています。他大学のサークルとの技術交流や、プロ劇団からの指導を受けるといった貴重な体験もできます。

(寄稿/人形劇団NEU運営委員

安富匠・知識2年)



2018年夏期にオーストラリアの大人向け絵本を舞台化した作品「おとしもの」

ミュージカル集団ESSASSA

私達は、年に3回、筑波大学内の教室を利用したミュージカル公演を行っています。日々の活動内容は、公演に向けた演技や歌、ダンスの練習のほか、舞台美術や衣装の制作、照明や音響プランの作成など多岐に渡ります。

また、当団体のWebページやTwitterでは、過去公演の写真や次回公演の情報、日々の活動の様子などを随時更新しております。

(寄稿/ミュージカル集団ESSASSA

第12期代表 飯塚葉梨・資源3年)



2018年度学園祭公演での集合写真